



CDR 検索の設定

CAR には、管理者、マネージャ、および個々のユーザの 3 つのレベルのユーザに対応したレポート機能があります。CAR 管理者だけが CDR 検索を使用できます。

この章は次の内容で構成されています。

- ユーザの内線による CDR の検索の設定 (P.8-2)
- ゲートウェイによる CDR の検索の設定 (P.8-3)
- コール終了原因による CDR の検索の設定 (P.8-5)
- コール終了の詳細の表示 (P.8-6)
- コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 (P.8-7)
- 迷惑呼による CDR の検索の設定 (P.8-9)
- 関連トピック (P.8-10)

開始する前に

Cisco CallManager のサービス パラメータ CDR Enabled Flag と Call Diagnostics Enabled を true(イネーブル) に設定して、システムが CDR データと CMR データを生成できるようにしてください。システムのデフォルトでは、これらのサービス パラメータはディセーブルになっています。これらのサービス パラメータの詳細については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

すべての CAR レポートが CDR データを使用します。レポートの生成材料となる CDR データは、必ず最新のものにしてください。デフォルトでは、CDR データは毎日午前 0 時から午前 5 時までロードされます。ただし、ロードする時刻、間隔、期間は必要に応じて設定できます。詳細については、P.3-8 の「システムスケジューラの設定」を参照してください。

ユーザの内線による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがユーザの内線による CDR の検索機能を使用します。

この項では、ユーザまたは内線を条件として CDR データの詳細を表示する方法について説明します。ユーザ名および内線を条件として、CDR データを検索できます。同じ検索でユーザと内線を両方とも指定すると、検索範囲を絞ることができます。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By User/Extension] を選択します。

[CDR Search by User Extension] ウィンドウが表示されます。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が 0～9 で構成される n 桁の数字を表し、「X」は 0～9 の範囲の 1 桁の数字を表します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- 内線を条件として CDR を検索するには、内線番号を [Add Extension] フィールドに入力し、[Add Extension] ボタンをクリックします。
- ユーザを条件として CDR を検索するには、[Search Extension(s) based on User(s)] リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを [First Name] フィールドや [Last Name] のフィールドの一方または両方に入力して、[Search] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある [Select] リンクをクリックします。[Close] ボタンをクリックします。

内線が [Selected Extension(s)] ボックスに表示されます。



(注) 項目をレポート条件ボックスから削除するには、[Remove Extension(s)] ボタンをクリックします。[Remove All Extensions] ボタンをクリックすると、レポート条件ボックスからすべての項目を削除できます。

ステップ 3 指定したユーザまたは内線の CDR データを表示する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 4 [OK] ボタンをクリックします。

[CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

ステップ 5 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 6 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

ゲートウェイによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがゲートウェイによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、特定のゲートウェイ タイプを条件として、または選択したルート パターンを使用するゲートウェイを条件として CDR データを検索する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By Gateway] を選択します。

[CDR Search by Gateway] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のコラムで [Gateway Types] をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、[Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、[Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。



(注)

ウィンドウの左側のコラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント リストを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント リストを検索します。

■ ゲートウェイによる CDR の検索の設定

ステップ 3 リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

ステップ 4 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。

ステップ 5 選択されたゲートウェイを [Selected Gateways] リスト ボックスに移動するには、下矢印をクリックします。

選択したゲートウェイが、[Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 6 CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

ステップ 7 [OK] ボタンをクリックします。

CDR-CMR Results ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

ステップ 8 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 9 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

コール終了原因による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコール終了原因による CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの終了原因に関する情報を検索する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By Cause for Call Termination] を選択します。

[Cause for Call Termination] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 コールの終了原因を検索するには、コールの終了原因のリストで、原因を強調表示します。



ヒント

キーボードの Ctrl キーを押しながら原因をクリックしていくと、複数の原因を選択できます。Shift キーを押しながらすべての原因をクリックしていった、リスト内のすべての原因を選択することもできます。

ステップ 3 必要な原因が強調表示された状態で、[Selected Call Termination Causes] ボックスの上にある下矢印をクリックします。

選択した原因が [Selected Call Termination Causes] リスト ボックスに表示されます。

ステップ 4 CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[Call Termination Details] ウィンドウに、レポートが生成されたときのレポート条件とともに、所定の期間に発信されたコールの合計数、および選択した原因コードごとのコール レッグの数とコール レッグの割合 (%) が表示されます。

ステップ 6 CDR を表示するには、P.8-6 の「[コール終了の詳細の表示](#)」を参照してください。

追加情報

P.8-10 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

コール終了の詳細の表示

この項では、コール終了の詳細を表示する方法について説明します。

開始する前に

P.8-5 の「[コール終了原因による CDR の検索の設定](#)」の手順に従って、[Call Termination Details] ウィンドウを表示します。

手順

-
- ステップ 1** [Select CDRs] フィールドで、表示する個々の CDR の横にあるチェックボックスをオンにします。リストに含まれているすべての CDR を表示する場合は、[Select CDRs] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** 表示する CDR の選択が終了したら、[View CDRs] をクリックします。
- [CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。
- このウィンドウから [Others] リンクと [View] リンクをクリックすると、メディア情報および CDR-CMR ダンプ レコードを表示できます。CDR 検索結果レポートの見方については、P.10-21 の「[CDR の検索の結果について](#)」を参照してください。
- ステップ 3** レポートを電子メールで送信するには、[Send Report] をクリックし、P.5-16 の「[レポートのメール送信](#)」で説明している手順に従います。
-

追加情報

P.8-10 の「[関連トピック](#)」を参照してください。

コールの優先レベルによる CDR の検索の設定

CAR 管理者だけがコールの優先レベルによる CDR の検索機能を使用します。

この項では、コールの優先順位を条件としてコールを検索する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [By Call Precedence Level] を選択します。

[CDR Search by Precedence Levels] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Select Precedence Levels] で、表 8-1 の説明に従って、検索するコール優先レベルのチェックボックスをオンにします。

表 8-1 コールの優先レベル

音声品質	説明
Flash Override	MLPP コールにおける最高の優先順位設定。
Flash	MLPP コールにおける上から 2 番目の優先順位設定。
Immediate	MLPP コールにおける上から 3 番目の優先順位設定。
Priority	MLPP コールにおける上から 4 番目の優先順位設定。
Routine	MLPP コールにおける最低の優先順位設定。



(注) すべての優先レベルのチェックボックスをオンにするには、[Select All] をクリックします。すべてのチェックボックスをオフにするには、[Clear All] をクリックします。

ステップ 3 [From Date] フィールドで、CDR 検索範囲の開始点となる日時を選択します。

ステップ 4 [To Date] フィールドで、CDR 検索範囲の終了点となる日時を選択します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[Call Precedence Details] ウィンドウが表示され、コールの優先レベルと値、コール レッグの数、およびコール レッグの割合 (%) が示されます。

ステップ 6 [Select CDRs] カラムで、確認する CDR のチェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [View CDRs] をクリックします。

[CDR-CMR Search by Precedence Levels - CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

ステップ 8 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータ フィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 9 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[Send Report] をクリックし、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

迷惑呼による CDR の検索の設定

CAR 管理者だけが迷惑呼による CDR の検索機能を使用します。

この項では、迷惑呼を検索する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [CDR] > [Search] > [Malicious Calls] を選択します。

[CDR Search for Malicious calls] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Select Extension(s)] ボックスで、[Extension] フィールドに内線を入力し、[Add Extension] をクリックします。
ユーザの内線が [Selected Extension(s)] ボックスに表示されます。
- ユーザの内線を検索するには、[Search Extension(s) based on User(s)] リンクをクリックし、姓または名の最初の何文字かを [First Name] フィールドや [Last Name] のフィールドの一方または両方に入力して、[Search] ボタンをクリックします。結果が表示されたら、レポートに含める結果の隣にある [Select] リンクをクリックします。ユーザに関連付けられている内線番号が、[Selected Extension(s)] ボックスに表示されます。[Close] ボタンをクリックします。



(注) 内線を削除するには、削除する内線を選択し、[Remove Extension(s)] をクリックします。すべての内線を削除するには、[Remove All Extensions] をクリックします。

ステップ 3 CDR データを検索する期間の日付および時間の範囲を選択します。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

[CDR-CMR Search Results] ウィンドウが表示されます。検索結果が 100 レコードを超える場合は、結果を切り捨てることを示すメッセージが表示されます。

ステップ 5 CMR データを表示するには、[Others] ボタンをクリックします。CDR および CMR の両方のデータフィールドを表示するには、[View] ボタンをクリックします。

ステップ 6 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」の手順に従います。

追加情報

P.8-10 の「関連トピック」を参照してください。

関連トピック

- [CDR の検索の結果について \(P.10-21\)](#)
- [メディア情報 \(P.10-22\)](#)
- [CDR および CMR のダンプ テーブル \(P.10-22\)](#)
- [レポートのメール送信 \(P.5-16\)](#)
- [ユーザの内線による CDR の検索の設定 \(P.8-2\)](#)
- [ゲートウェイによる CDR の検索の設定 \(P.8-3\)](#)
- [コール終了原因による CDR の検索の設定 \(P.8-5\)](#)
- [コール終了の詳細の表示 \(P.8-6\)](#)
- [コールの優先レベルによる CDR の検索の設定 \(P.8-7\)](#)
- [迷惑呼による CDR の検索の設定 \(P.8-9\)](#)